

あだたら

第434号
発行所 郡山市喜久田町
あだたら山の会
編集 編集部

一月十一日(土)〜十二日(日)
福島県山岳連盟 積雪期技術研修会
報告 □□□□



会場、磐梯青少年交流の家前庭にて、右端二人が当会会員

当会からの参加者は、□□□□、□□副会長と私の三名である。十一日、会場の磐梯青少年交流の家で十二時三十分からの受付であったが会津、猪苗代地方

二日前から断続的な大雪で国道が通行止めになるニュースもあって、道路状況には不安があった。通常なら土湯峠超えて行くところだが高速道路が通行できると

わかったので高速で会場に向かうことにした。猪苗代ICを降りると確かにとんでもない雪で二駆の小型車で雪にハンドルと取られながらもなんとか会場にたどりついた。研修開始は十三時からで、最初は室内での座学から始まる。初日はピッケル、アイゼンの特徴と使用方法、滑落防止、雪上支点の取り方の説明を聞いた。次は休憩を挟んで雪上での実技である。アイゼンを装着して、ピッケルを持って昨夜積もった新雪の上を歩きはじめた。さらさらふわふわ雪で簡単に足が数十センチくらい潜ってしまう。こんな雪質でしかも平地なのでピッケルは全く役に立たない。だれかのトレースをたどる場合は比較的歩きやすいが、先頭で歩くのは著しく体力を消耗した。最後にスタンディングアックス、ピッケルのデモを見せていただいた。雪にピッケルを打ち込んでロープの支点を確保しパートナーを補助するというものがあるがデモを見るだけではなかなかよくわからない。二日目は雪崩のメカニズム、ピーコンやココヘリについての座学から始まり実技では雪崩で埋没した遭難者に見立てて埋

められたピーコンを探して掘り出す(救出する)訓練を行った。生存率五十%を下回ってしまうとされる二十分以内の救出が目標で実際にかけた時間も約二十分であった。二日目は最後は雪洞掘りである。三つのグループでそれぞれリーダーの指示のもとグループ全員でピバークできる雪洞を掘る。我々のグループはあだたら山の会の三名十一名の合計四名だ。□□□□がリーダーとなり、雪の深さを確認し、掘る場所を選び、作業に着手した。スコップで掘る、雪をかき出すなどの作業を交代で行った。入り口は狭くし最後はツェルトで塞いだ。内部は広い空洞にして全員が入れる雪洞が完成した。岳連の研修会はハードな研修と思っていたが、実

わかったので高速で会場に向かうことにした。猪苗代ICを降りると確かにとんでもない雪で二駆の小型車で雪にハンドルと取られながらもなんとか会場にたどりついた。研修開始は十三時からで、最初は室内での座学から始まる。初日はピッケル、アイゼンの特徴と使用方法、滑落防止、雪上支点の取り方の説明を聞いた。次は休憩を挟んで雪上での実技である。アイゼンを装着して、ピッケルを持って昨夜積もった新雪の上を歩きはじめた。さらさらふわふわ雪で簡単に足が数十センチくらい潜ってしまう。こんな雪質でしかも平地なのでピッケルは全く役に立たない。だれかのトレースをたどる場合は比較的歩きやすいが、先頭で歩くのは著しく体力を消耗した。最後にスタンディングアックス、ピッケルのデモを見せていただいた。雪にピッケルを打ち込んでロープの支点を確保しパートナーを補助するというものがあるがデモを見るだけではなかなかよくわからない。二日目は雪崩のメカニズム、ピーコンやココヘリについての座学から始まり実技では雪崩で埋没した遭難者に見立てて埋

●福島県連絡先
二本松市郭内一五五
0243(22)4245
FAX可・渡辺 正



会場の、磐梯青少年交流の家、背景は磐梯山

際に参加してみると体験学習のような感じて気楽に二日間を過ごすことができた。また、一日目の夕食後には懇親会が催され、他の山岳会の話や聞くことができた。さらに各自が自慢の酒を持ってくるので、いろんな酒の味を楽しむことができた。安達太良登山では使わないような技術を気軽に体験できるので興味があったらぜひ参加してみよう。



集まった酒



夕食後の懇親会



完成した雪洞に入ってみた



雪洞作り、会長



雪洞作り、副会長・□□

一月十九日(日) 一月山行冬山パトロール



11月山行で上げておいた篠竹、雪に埋められて凍り付いていると、道標に使うために、抜くのが大変だ



奥岳に戻って参加者集合



山頂を背景に撮影、超快晴、まさに「春山」、山頂には他の登山者も沢山



山頂の賑わい、天気も良いし登山者一杯



勢至平コース、勢至平分岐にて

勢至平班、報告

報告 □□□□



薬師岳山頂

例年の一月山行

編集部

一月山行、良い天気にも恵まれ、写真見たらまるで春だ。例年一月・二月の冬山パトロールは、吹雪の中が当たり前。積雪も中途半端で、山頂近くまではつぼ足、樹氷の上辺りで漸くカンジキ着けるのが普通。眼鏡にも雪積もって見えなくなると怒鳴られた。そんな冬山経験しているから、春三月の冬山パトは良く晴れて一面の雪で風も無くて嬉しくてしょうがなかった。今回は例外ですよ、山はそんなに甘くはない。

正月気分も抜けた十五日、□□さんより十九日のパトロールの誘いの電話。八時集合の五葉松平山頂方面と、九時集合勢至平方面のコースとの事。勢至平コースに参加することに。今年は例年になく大雪のようだ。まだ雪も固まっていない。カンジキ無しでは入山できない。一昨年の備品確認の時、古いものは処分することになり、まだ使えそうだと思いい、スノーシューと木製の輪カンジキを買ったものがあり、スノーシューを点検したところ、プラスチックの部分が折れてしまい、修理するのに時間がかかるので、輪カンジキにした。これもまた、使っていないのでカンジキ本体だけでヒモも無し、ありあわせのヒモで参加する。奥岳九時集合、参加者は□□さん郡山の□□さんたち、私と四人の参加。□□さんたちはスキー、□□さんと私は歩き、雪は鳥川で約一メートル位。雪で登山道に出ている笹や木の枝などを折り、古い赤布などを取り替えながら勢至分岐迄入る。勢至平は小さな木は雪の中、大きな木だけがでている。籠山コースも夏山コースとは別になり湯桶と馬車道の交差する少し下に付けられていた。昼食後下山、□□組はスキー、□□さんはスノーシュー、私はツボで下り、□□組は馬車道、□□さんスノーシューを外し二人で旧道を奥岳二時半無事下山、三時に解散、帰路につく。



今年の初日、スカイピアから



1月6日、竹田根崎の通りからの安達太良山、麓の町から、こんなに見事に眺められる山、そうざらにあるものではない、貴重品

お正月の安達太良山

撮影

元日(水)

個人山行・正月ウォーキング

報告 □□□□

令和七年元日、妻と細野へ、車の中で日の出を待つ。石井にいる息子と孫も来た。多くの人の中で四人同時に太陽に向かい手を合わせる事ができた。今年も良い年になるのではないかなと思う。地元の神を廻り帰宅。何時もなら山行の準備をするのだが今年はずいぶん

まずコタツに入りテレビ見である。外は晴れている、これでは衰えた体力を進ませるばかりになる。運動しようと思つてウォーキングザックにカップラーメンとお湯を入れ、表に出る。西の空も晴れている。板目沢方面に行くことを決め家族に話し十時半家を出る。伊

佐沼二丁目より小さな峠を越え板目沢へ、峠の陽だまりの榎木に腰掛け二十分の昼食タイム。十一時半板目沢へ出発する。国体の射撃場を見た。車がなかったの無断で入り、国体会場の大きさは違うと思つた。車道と歩道が区別された道路となり、安心して歩ける。ベニマルで水分補給、帰宅する。約四時間、二万三千歩、十五キロ(携帯万歩計)のウォーキングの元日とな

った。
▼二日には山ノ入ダム、約二時間、一万三千歩、九キロ。
▼三日には家族子供孫曾孫と集まり、十五名での新年会。
▼五日は妻といわきの白水阿弥陀堂、アクアマリンのドライブ。
▼七日は城山、見晴し遊歩道、竹田坂より安達高、雷神坂とウォーキング三昧の正月であった。

体協・新春の集い

報告 □□□□



万歳!

未だお正月気分が抜けていない十二日(日)体協新春の集い。会場は金色の二本松御苑。郭内の自宅から歩いて二十分程。三十分ほど前に着いたが、他の参加者が中々来ない、この日猪苗代の磐梯青少年交流の家で、冬山講習会だったのだ。それでも開始時刻五分程前には到着、会場に入った。テーブルは「会」。この歳になると、体動かす現役の参加者とも知り合いが少なくなる、だから出合ふと特に嬉しくなる。出合っ



あと一人は、カメラの□□

たのはスボ協理事長□□□□さん(当会会員)、オリエンテーリングクラブ□□□さん、ゲートボールクラブ□□□さん(当会会員)、陸上競技の□□□さん等、来賓では岳クラブ会長、民報民友記者等。久しぶりに酒酌み交わした。
◆一月十六日福島民報「みんなのひろば」、□□□□さん投稿、『そばにいてくれるだけでいい』。
◆今シーズン、奥岳のスキーリフト、薬師岳へのルートである五葉松平へのコース、運転されていない。安達太良山への登りが一寸辛くなってきている。冬だけの話だが、もっとも下山して来たとき「ゲレンデ歩くな」といわれることはないが。
◆今日は二月五日。三日は立春、霞ヶ城公園ではシロバナタンポポやスマイレの開花が見られた。日中日射しがあると温かった。太陽高度高くなつたし、夕方日暮れも遅くなった。春の兆しだ。だが今朝から強烈な寒波が来た、雪がちらついている、冬に戻った。今回の強烈寒波が収まると、更に春が進むのだろう。
◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。

編集後記 四三四号